

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス 2016 年度秋学期シラバス  
SFC 政策研究支援機構寄附講座「地域協働とフィールドワーク」

■科目名：「地域協働とフィールドワーク」(Regional Collaboration and Fieldwork)

■担当教員：宮垣元、坂倉杏介

■開講日程：2016 年度 秋学期 火曜日 4 時限

■単位：2 単位

■履修者制限：50 名

■前提科目：特になし

■関連科目：まちづくり論、都市計画とまちづくり、NPO の設立と経営、社会起業論、ソーシャルイノベーション、ソーシャルマーケティング、コミュニティインベストメント

■設置趣旨

この授業は「SFC 政策研究支援機構」からの寄附講座として開講するものである。SFC 政策研究支援機構は、慶應義塾の卒業生有志の基金によって、学生主導によるフィールドワーク研究を支援するために 1999 年に設立された組織である。毎年、複数のフィールドワーク研究助成が行われ、SFC にふさわしい、問題発見・解決型の学びを支える最も重要な制度のひとつとなっている。

本寄附講座は、こうした SFC 政策研究支援機構の理念や制度の理解を深め、メンバーの智を伝達しつつ、塾員、教職員、学生が一体となって実践的なフィールドワーク研究を支援することを目的として 2007 年度に創設された。一方、そのフィールドワーク先となる地域社会は、行政や企業だけでは解決できない課題を抱え、地域再生は政府の重要施策のひとつにもなっており、その解決策のひとつとして、地域大学連携への期待も高まっている。大学の地域連携は、市民と学生の双方に気づきや活力を与え、学生にとっての重要な学びの場であるとともに、同時に地域で活躍する人材を育成する可能性を持つ。もっとも、地域と学生が連携して課題解決していく有効な方策については依然模索段階にある。SFC らしい学びの実践や高まる大学への期待に応えるため、学生、教員、地域関係者がともに地域協働の意義、可能性や課題を議論し、解決策を導き出す機会を設ける必要がある。

■科目概要

本寄附講座は、全国の社会イノベータが取り組むユニークな事例を通して、これからの地域づくりやコミュニティ活性化にむけた具体的方策、プロジェクト企画の方法を、実践的な観点から学ぶ。講義では、SFC 政策研究支援機構の助成を獲得し既に実践を行うプロジェクトを紹介したり、地域にイノベーションを引き起こす実践者をゲストにお迎えしたり、さらに地域活性化事例のケース教材等を使いながら、地域づくりの可能性や課題、解決策、そのなかで大学の役割などを議論する。

対象となる学生は、SFC 政策研究支援機構のフィールドワーク助成を既に受けている、もしくは検討している学生、実際に地域でのプロジェクト活動を計画または推進している学生、地域大学連携に関心のある学生などとする。最終成果として、地域の問題解決につながるプロジェクト計画書を作成し、その構想を授業内で発表する。これらを通じて、地域大学連携、地域再生をイノベーティブに推進するために必要な実践知を学ぶ。

#### ■主題と目標／授業の手法など

地域協働をもたらすための具体的方策、プロジェクト企画の方法を学び、それを実際に推進するために必要な実践知を学ぶことを目的とする。SFC 政策研究支援機構のフィールドワーク助成を受けているまたは検討している学生、実際に地域でのプロジェクト活動を計画または推進している学生、その他地域協働・地域大学連携に広く関心のある学生などを対象とする。ゲストスピーカーによる事例紹介とディスカッションやグループワークを盛り込む。最終成果として、地域の問題解決につながるプロジェクト計画書を作成し、その構想を授業内で発表する。

#### ■教材・参考文献

- ・ 國領二郎・飯盛義徳編, 2007, 『「元気村」はこう創る』 日本経済新聞出版社.
- ・ 飯盛義徳, 2009, 『社会イノベータ』 慶應義塾大学出版会.
- ・ 金子郁容・巖網林・国領二郎編著, 2010, 『社会イノベータへの招待 ―「変化をつくる」人になる』 慶應義塾大学出版会.
- ・ 金子郁容・玉村雅敏・宮垣元編著, 2009, 『コミュニティ科学 ―技術と社会のイノベーション』 勁草書房.
- ・ 熊倉敬聡・坂倉杏介他著, 2010, 『黒板とワイン ―もう一つの学び場「三田の家」』 慶應義塾大学出版会.
- ・ 西村仁志編・坂倉杏介他著, 2014, 『ソーシャル・イノベーションが拓く世界 ―技身近な社会問題解決のためのトピックス 30』 法律文化社.
- ・ その他、ケース教材などを別途配布

## ■授業計画

### 第1回 インTRODakション (担当: 宮垣・坂倉) 9/27

本授業の目的、授業構成と内容、授業方法と評価についての説明、地域協働の必要性について概説、また SFC 政策研究支援機構の紹介を行う。

### 第2回 「地域」と「私たち」をめぐって (担当: 坂倉) 10/4

地域協働の背景について講義、グループワークの実施に向けて受講者の自己紹介とグループディスカッションを行う。

### 第3回 地域協働とコミュニティの諸問題 (担当: 坂倉) 10/11 ※宮垣不在

コミュニティの捉え方についての伝統的な定義と情報社会における今日的な理解について、その醸成の課題と可能性についての講義、ディスカッションを行う。

### 第4回 地域イノベータとは何か?: 新たな地域づくりの潮流 (担当: 坂倉) 10/18

前回講義の基本的理解を踏まえ、新しい地域づくりの実践とその考え方についての講義とディスカッションを行う。

### 第7回 プロジェクトの計画設計1 (担当: 坂倉) 10/25

受講生によるプロジェクト企画立案の発表(第1回)を実施し、受講生間のコメントとディスカッション、グループワークを行う。

### 第8回 地域イノベーション活動の事例研究1 (担当: 坂倉、ゲストスピーカーを予定) 11/1 ※宮垣不在

ゲストもしくは先進事例を用いた講義(ゲスト講師のご都合により第8回か第11回に行う)、質疑応答とグループによるケースディスカッションを行う。

### 第5回 先輩たちの活躍1 (SFC 政策研究支援機構助成者の講演) (担当: 宮垣・坂倉、ゲストスピーカーを予定) 11/8 ※支援機構中間発表会として実施 (FIX)

大学地域連携の実践事例である SFC 政策研究支援機構の背景とねらい、これまでの取り組みについて解説。第一線で活動を行う事例についてのゲスト講義を実施する。

### 第6回 先輩たちの活躍2 (SFC 政策研究支援機構助成対象プロジェクト中間発表) (担当: 宮垣・坂倉) 11/22 ※11/8 に実施済みのため内容未定、機構助成の呼びかけ (田中)

SFC 政策研究支援機構の支援により現在取り組みを行っている活動(助成対象プロジェクト)について当事者からの報告と質疑応答、ディスカッションを行う。

**第9回 フィールドワーク実習（担当：坂倉） 11/29**

フィールドワークの思想と方法について講義、フィールドワーク実施にあたっての注意事項の概説と実習を行う。

**第10回 プロジェクトの計画設計2（担当：坂倉） 12/6**

第7回のコメントと第9回の実習を踏まえ、プロジェクト企画立案（最終プレゼンテーション）に向けたグループワークを進める

**第11回 地域イノベーション活動の事例研究2（担当：坂倉、ゲストスピーカーを予定）**

**12/13 ※宮垣不在**

ゲストもしくは先進事例を用いた講義（ゲスト講師のご都合により第8回か第11回に行う）、質疑応答とグループによるケースディスカッションを行う。

**第12回 プロジェクト計画発表1（担当：坂倉・宮垣） 12/20**

プロジェクト計画の最終プレゼンテーション（前半）、ディスカッションとピアレビューを行う。

**第13回 プロジェクト計画発表2（担当：坂倉・宮垣） 12/27 ※宮垣不在可能性あり**

プロジェクト計画の最終プレゼンテーション（後半）、ディスカッションとピアレビューを行う。

**第14回 まとめ（担当：坂倉） 1/17**

前回までに発表したプロジェクト計画の全体講評を通して大学地域連携と地域イノベーションプロジェクトの可能性について考察し、ふりかえりを行う。

**※ゲストスピーカーは11/1と12/13に仮置き。ゲストの都合により変更可能性あり。**

#### ■提出課題・試験・成績評価の方法など

- ・授業では、SFC-SFS を活用し、適宜、レポートや感想の提出がある。また、グループワークやディスカッションを中心とした授業となるため、積極的な参加や発言が求められる。期末試験は行わず、最終成果としてプロジェクト計画書を作成、発表、提出する。
- ・成績評価は、出席が 30%、クラスへの貢献（発言、小レポートの内容、グループワークへの参加、計画書の発表など）が 40%、最終課題の内容が 30%の割合で総合的に判断する。

#### ■評語タイプ

A・B・C・D・／

#### ■履修上の注意・その他

- ・本授業は、グループワークやディスカッションなど、かなりのワークロードを必要とする。そのため授業内容に強い興味、関心、情熱がある学生の受講を希望する。
- ・授業内の発表ではプレゼンテーションソフトを用いる。
- ・ゲストスピーカーのご都合により、授業内容、日程等が変更されることがある。最新のスケジュールは SFC-SFS を確認すること。
- ・SFC 政策研究支援機構による研究助成を受けた学生グループ、またこの制度に関心のある学生には履修を強く促す。
- ・プロジェクト計画発表の講評を受け、グループワークの進捗に関してオフィスアワーに個別相談を行う。